

## World Wide Webによる金沢市の観光ナビゲーション

5 S - 1 0

青木弘嗣 高木義行 円城将義 飯島泰裕

金沢大学

## 1. はじめに

情報化社会と言われて久しいが、依然としてヒト、モノ、カネや情報の東京一極集中は続いている。ネットワークが普及し、並列分散型社会が発展すれば、地方における新規ビジネスの可能性が大きくなる。そこで世界的に広がっているネットワークであるインターネットを使い、「金沢」を世界に知ってもらい、地方と都市の壁を薄くすることができる考えた。

## 2. 情報発信の方法

現在、最もポピュラーで、最良の方法であるWorld Wide Web(WWW)を使って情報を発信する。他のサーバで石川県の観光案内をしたものがあるが地図をクリックして名所を紹介するだけのもので、こうしたサーバは、石川県だけでなく、多くの観光紹介に使われており、それでは差別化をすることができない。そこで、“食”をキーワードに「金沢」を紹介することを考えた。しかし、いろいろな人に見てもらおうことを考えると、情報の種類が多様化するので、以下の3つの点から情報の種類を考えた。

## a. 誰が見るのか (対象)

国籍、性別、年齢を問わず、あらゆる人にこのサーバを見てもらいたいが、今回は31～60歳と15～30歳の年齢別と、男女別の区別を付けた。

## b. どの情報が必要とされているのか (場所) 31～60歳

は、古都金沢のイメージをそのまま伝えられる内容にし、料亭や郷土料理の紹介などを行う。また15～30歳はデート

Sightseeing navigation in kanazawa by WorldWideWeb

Koji Aoki, Yosiyuki Takagi, Masayosi Enjyou,

Yasuhiro Iijima

Kanazawa university

Kakuma Kanazawa Isikawa 920-11, Japan

kaoki@icews1.ipc.kanazawa-u.ac.jp

コースや友達同士で飲みに行く場所などの情報を提供する。

## c. どんな情報が必要とされているのか (内容)

31～60歳は料亭で何が食べられるのか、値段はどれくらいなのかということと、郷土料理の作り方を紹介する。15～30歳はデートコースシミュレーションなどを試みる。

## 3. WWWの利用価値

自分が表現したいことを人に訴える時、その手段としては演説、本の出版、放送メディアの利用などがある。多くの人を魅了するためには、何を利用するにせよ導入部分というものは最も重要である。演説においては事前の概要配布、放送メディアでは新聞のテレビ欄の表現の仕方などである。

本で言えば、表題と表紙にあたる部分が、ホームページである。ホームページにはこれから表現したい自分の世界に引き込むための様々な工夫が必要である。従って、ホームページを作る時に以下の3点について考慮した。

## ア. ビジュアル要素を多くし、文字を減らす

絵を使うことにより、文字を伝達すると同時に人間の直感や、イメージに訴えて伝達速度を早めることができる。

## イ. 色はあまりたくさん使わない

ビジュアル効果だけを考えすぎると、色彩を豊かにし、手の込んだものを作ってしまうが、色が多いと、データ通信に時間が効かり、読み手をイライラさせてしまう。

## ウ. レイアウトをすっきりさせる

題目だけですっきりとしたレイアウトを構成し、読み手の興味を次のページまで持続させる効果を狙う。

## 4. 食の金沢

金沢は日本海に面しているので、海の幸が豊富であり、南に白山という大きな山を背負っているため、山の幸も豊富であ

る。このような点で、コンセプトを”食”にしたことは金沢を印象付けるには大きな意味があるだろう。ホームページはシンプルなものにし、独自性をだすために、ホームページでいきなりアンケートをし、最適な情報を自動的に選ぶようにした。

(図1)

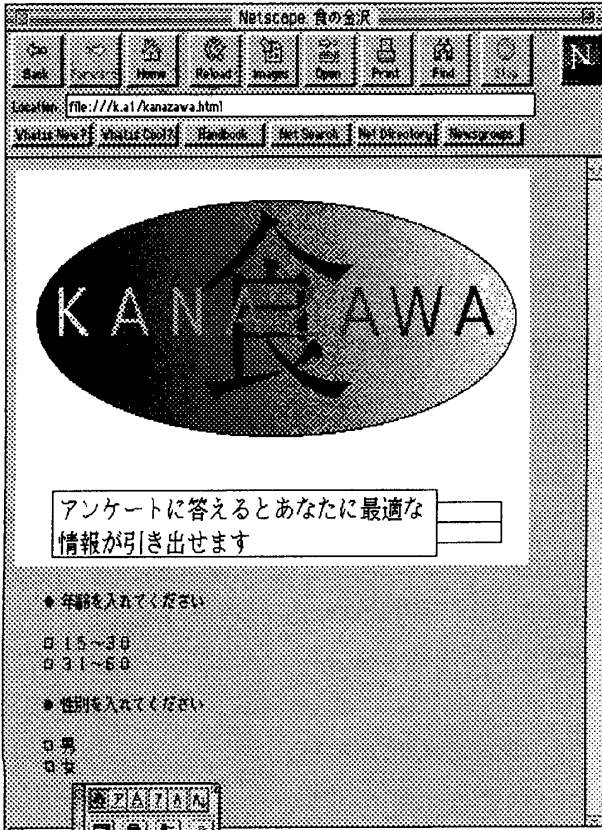


図1. 食の金沢のホームページ

指示にしたがってアンケートに応じてもらい、あらかじめプログラムした情報を流す。同時にどれぐらい人数が見たのかを得ることができる。

観光地を訪れる場合、名所を見るだけということは決してない。いつもと違う土地にくると心が開放的になり、食欲も増す。そこで観光ガイドと食べ物情報を密接にリンクさせることにより、観光地にとっては儲けになり、観光客にとっては欲望を満たすことができる。また、郷土料理については、その店の紹介にとどまらず、家庭での作り方までリンクした。こうして他のサーバとの差別化を行った(図2)。

5. おわりに

世界に金沢を知ってもらうために、WWWを利用して、情報発信することを試みた。”食”というキーワードに統一性をもたせたことで他のサーバとの差別化に成功した。今回題材とした金沢という都市は伝統的な地場産業で発展してきた都市なため、大企業の資本の導入を拒んできたきたという歴史的経緯がある。したがって情報を武器として、全く独自の企業が生まれる可能性が高い。

したがって、ネットワーク社会がより高度化してそれが浸透すれば、もはや地方と言う言葉自体が消えてしまう可能性さえあり、都市と地方の距離を縮めることができるのではないかと思う。

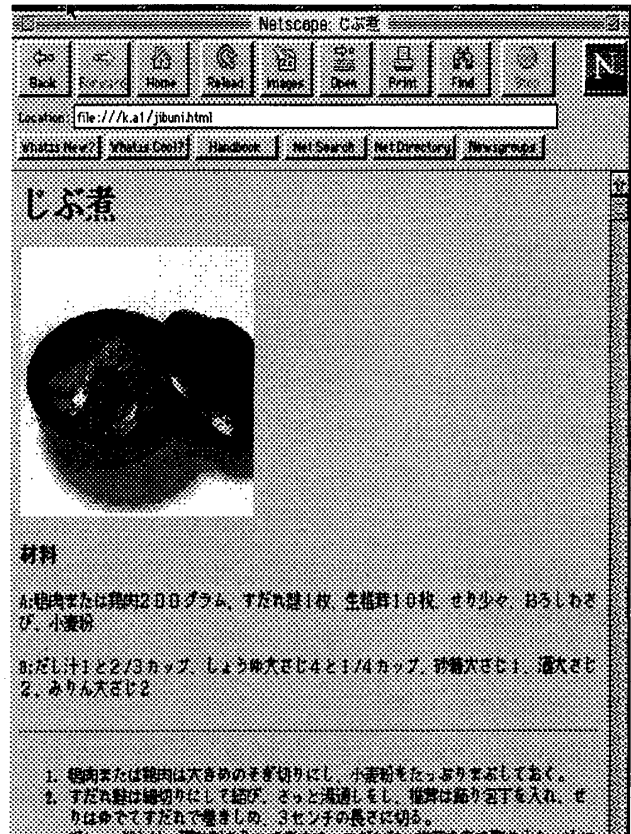


図2. じぶ煮の作り方

参考文献

1. 青木悦子著:”金沢、加賀、能登、四季の郷土料理”、主婦の友社
2. ”インターネット ビジネス活用の最前線”、オーム社